

発行日 平成8年7月1日
発行者 江別市生涯学習推進協議会
編集人 広報小委員会(春日基)
連絡先 江別市教育委員会生涯学習担当
(高砂町24・381-1062)

学習の輪 広げよう

8年度 推進協議会の総会終わる

5月11日

去る5月11日(出)、市民会館において、平成8年度江別市生涯学習推進協議会総会が代議員二十七名の出席をもって開催されました。
伊藤会長のあいさつの後、来賓の小川市長は、「行政のつくった器に、みなさんの手

で魂を入れてください。」とエールを送ってくれました。つづいて、議長に、藤井實氏(江別市シルバー人材センター)が選出され、議事に入りました。
審議は、七年度の事業及び決算、会計監査報告ならびに

八年度の事業及び予算でしたが、いずれも原案どおり承認されました。八年度の主な事業は、第二回生涯学習フェスティバルえべつ、紅ライフトーク'96、生涯学習講座など今年も積極的に市民へ学習の機会を提供していきます。
出席者は、設立二年目の草創期である本会の活動充実と発展のための決意を新たにしました。

わたしたちの合言葉
「いつでも、どこでも、
だれでもが」



江別市生涯学習推進協議会総会



生涯学習推進協議会総会

「みなさんの活躍に期待
しています」と市長

人生を二度生きる

熱気むんむん 自分史入門講座

人生という一つのドラマを形のあるものとして残したいと願う人々は、高齢化社会の伸展とともにますます多くなってきています。

市教委では、女性文芸サークルの白萩会、ふだん江別グループとの共催で、5月31日から6月28日まで自分史入門講座を開催しました。この講座には四七名の申し込みがあり、自分の静かなブームを実感することができました。

第一回目は、北海道自分史友の会会長、本間末五郎氏の



背中に刻み込んだ人生の年輪、文字にしませんか。

「自分史のすすめ」、第二回から第五回では「自分史とは何か」・「自分史を書くために」等、基礎や取り組み、調査方法、資料収集、執筆の心がまえを学びました。

受講者の中には、既に自分史を発売された人もおりました。また、その準備のため資料を集めている人、何か記録を残しておきたいが自分史となると難しいので...といった人の参加が多かったようです。自分史づくりは他人に自分を知ってもらうことはもとよ

り、自分を見つめる良いチャンスでもあります。自分にとっていつが一番輝いていたか、最大の冒険は何か、悩んだこと、悲しかったことを一つづつ思い出し、記録していくことで自分の姿が浮き彫りにされます。自分史は「過去への旅」、自分の価値の再発見でもあり、次代に贈る精神的財産でもあります。

この講座から新しい自分史が生み出される、そんな予感に満ちた会場の熱気でありました。
なお、市教委では、これを機会に「文集・自分史(抄) わたしの私」を発売します。講座に不参加の方も9月末まで、原稿をお寄せください。

日々楽しむ私の生涯学習



名取 清きよ

本番三〇分前、装置・道具の最終チェックを終え、緞帳を降ろして、客入れを始める。もう、後戻りはできない。1ベルが鳴り、役者が定位置に付き始める。スタッフは闇に消えていく。最高の緊張感が張り詰める。2ベルが鳴り、一瞬の静寂の後、緞帳が飛び始める。照明が入り、音響が鳴り出す。役者が動き出す。やっと、ほっとする。暗くなった客席に入り込み、前から見てみる。お客の顔を見回す。

道具屋さん

一九七八年

に劇団「川」に開わり、三年目より主に「装置デザイン」「道具屋（大工さん）」を手掛ける様になりました。一八

す。食い入る様に見ている。大丈夫そうだと一安心して、舞台転換の段取りに戻る。……そろそろラスト、スタッフは静かに片付けの段取りを始める。ラスト、大きな拍手が起こり緞帳が降り始める。中では、役者とスタッフが「くろうさん」と握手、肩を抱き合い、役者は急いでロビーに走り出て行く。スタッフは急いで舞台の解体に入る……

感動を求めて

この時に何もかも忘れてしまっています。今年、装置図を立体で作りたくて、パソコンを買いました。

(劇団「川」団員)

当別町の青山区から厚田に通ずる道道月形厚田線の途中に「神木」として崇められているオンコの太木がある。大正三年にこの地区一帯を焼きつくしたと言われる大火にも生き残り、今もお生命力豊かに繁茂している。樹齢は、千年以上を重ねて



やる気の顔が勢ぞろい (蒼樹大学入学式)

いると言われており、高さ一七メートル、直径一・六メートル、別名「見晴らしの松」と呼ばれている。

森閑とした山合の中に、風雪に堪えて成長し続けてきたこの老木に出会ったときの感動は、鮮烈であった。



三瀬 博ひろし

私達は、ある偉大なものに出会ったときに一瞬「ことば」を失ってしまうことがある。それは、あるときは歳老いてなお威厳をもち続けている「生きもの」であったり、または雄大な風景であったりするが、その出会いに息をのむような感動を持つことがしばしばある。

「教育は感動である」といわれるが、私は「自己淘汰の原点にあるもの」として受けとめている。人生には、幾度かの節目がある。出生から入学、卒業、就職、結婚とその度ごとに私達は新たな感動を必ず体験している。日常生活において、趣味や社会活動の、あるいは友人との交わりの中に感動との出会いは、多いはずである。積極的な体験を通じて、新たな出会いや感動の持つ生き方を求めていきたいものと思っている。(北海道消防学校教官)



山口 房恵りつこ

視点をおき、学べる受け入れ態勢があつて、六〇代にして一〇代の頃のように自分の時間を持つことが出来た時、それに専念出来るのが楽しい。こんなに嬉しいことが自分の中に残っていたことを発見しました。

一〇代ふたたび

音楽にあわ

江別市大麻に住んで、とてもまとまりのある教育委員会の方針のおかげで、社会活動にも趣味にも自分の意志に応じ、環境にみあったところに

社会活動としては、日赤奉仕団に籍を置き、年齢に添ったお手伝いをさせてもらっています。また、趣味に

トロッツ等々、踊る自分の姿

は見ないことにして、この喜びを親しい友人と分かち合いたいとお誘いもしました。レッスン中は、雑念は消え、自分の限界に妥協しながら、偏見は持たず、自由な気持ちに満ち、この江別に住んで良かった、この偶然に感謝して暮らしております。(日赤奉仕団大麻分団員)



江別市スポーツ少年団本部

佐古利男（本部長）

平成八年度の江別市スポーツ少年団の登録数は、団体三

七団、団員数約一三〇〇人、

指導者数約一三〇人となつて

います。うち、資格を持った

「認定員」が九〇人、「育成

員」が四人います。また、体

力テスト判定員も九人おり、

単位スポーツ少年団の指導の

ほかに、体力テストやリター

ド研修会等で活躍しています。

市内スポーツ少年団の元祖

は、江別剣道スポーツ少年団

で、昭和四〇年に創設、昭和

四九年六月までに、卓球や水

泳など一〇団が創設されてま

た。

同年九月に有志が集まり、

「情報交換のための組織を創

ろう」と、「江別市スポーツ

少年団連絡協議会」を結成し、

市内のスポーツ少年団の代表

者が一堂に会し、団の結成促

もらえませ

ら説明して

も納得して

ら説明して

も納得して

ら説明して

も納得して

ら説明して

も納得して

が生じまし

た。一番大

きな問題は、

「登録料」

でした。「メ

リットがあ

るのか」の

一言です。

特に、古

くからある

団の指導者

には、いく

ら説明して

も納得して

ら説明して

も納得して

小さなスポーツマンと三十年

少年団の活動

進、技術の向上、指導視野の

確保、資質の向上などを目標

に活動を始めました。

しかし、昭和四一年、「登

録制度」が発足してから問題

な

な

な

な

な



ソレツ、チームワークが勝負だ長縄跳び!

なか取り組めないこと、③予

算的に制約のあること、など

市民組織であればこそやれる

学習事業が数多くあるからで

あります。

本協議会には、文化、福祉、

青少年、婦人、自治会、スポ

ーツ、国際交流などいろいろ

な団体が加入しております。

市民組織ならではの学習事業

を提供することができましょ

う。そのことが市内の生涯学

習を飛躍的に推進するこ

とにほかなりません。

無論、行政を無視する

ものではありません。行

政にも一層ががんばっても

らい、行政と市民組織が



市民ニーズへの対応が必要

音楽と講演のつどい

紅

ライフトーク'96

〈講演〉「世界の街と江別の街」
北大工学部 小林三樹氏
〈音楽〉江別弦楽アンサンブル

・8月22日(木) AM10:00/江別市民会館大ホール/無料
・お問い合わせは教育委員会生涯学習担当(381-1062)へ

日本の美を求めて

〈江別市菊友会〉

貴方も菊を作ってみませんか。江別市菊友会では、ただいま会員募集をしています。市の花でもある「菊」。毎年文化祭でご覧になっている菊を貴方も作れるのです。年会費 2,000円。詳細は事務局長の松坂さん ☎383-8476まで連絡ください。

〈西崎流小夜重会〉

日舞を楽しみましょう。個人稽古は週1回火または水、大麻高町西崎さん宅、月謝6,500円。団体稽古は毎週金曜、大麻公民館、月謝 2,500円。また、無料体験も開催予定です。くわしくは、西崎さん ☎386-1336まで。

会員の募集

江別市生涯学習推進協議会では、加入団体を募集しております。現在、市内の79団体から加入いただいておりますが、より一層の発展のため、皆様のお力添えが欠かせません。団体の規模、活動内容は問いません。詳細については下記事務局まで。

〈事務局〉

教育委員会生涯学習担当

☎38111062

おねがい

「ら・ら・ら」編集部まで原稿を送ってください。私の生涯学習「私の宝物」や「団体のプロフィール」など紙面を留意してお待ちしています。また、あなたのクラブ・サークル・団体などの行事・イベントなどのお知らせやメンバー募集などのPRにもご協力します。

その他、紙面に関するご意見、ご感想などなんでも遠慮なくお寄せください。

こ存じですか？ 推進協議会の役割

江別市生涯学習推進協議会（会長伊藤貢・79団体加入）は、どんな団体で、なにをするのか、また行政（教育委員会など）とどんな関係なのか、の質問が寄せられました。この機会に本協議会の存在意義などについて考えてみましょう。

① 考えつかないこと、② なか

① 考えつかないこと、② なか

① 考えつかないこと、② なか

① 考えつかないこと、② なか

① 考えつかないこと、② なか

私の宝物 夢の懸け橋

角谷 史彦

今では、大半の江別市民は「四季のみち」をご存じと思いますが、冬のゾーンに立っているミニユメントを知っていますか。レンガ製の時計塔です。



私が東京から江別の実家に帰って来たのは、昭和五九年の夏でした。一〇年振りの私の周りには学友・悪友がほとんど就職の為、江別に残っておらず、社員と家族の会話だけでした。

そんなある日、「ゴルフが出来る団体」と紹介され、

(旧)江別青年会議所に入会しました。入会五年後、私もそろそろ団体の主旨を理解しはじめた頃、専務理事をさせて頂き、その年、(旧)江別青年会議所創

立二〇周年目の年となりました。多くの先輩諸兄の英知と汗によって築かれた(旧)江別青年会議所は、行政や地域の方々のご協力、励ましのもと、地

域に根ざした「人づくりづくり」運動を旺盛に展開し、二〇年の歳月が経ちます。

この二〇周年という節目を迎え、市民のためにお役に立てる活動のひとつとして、この「四季のみち」のなかに、江別の特産物である野幌レンガを用い、アーチ状(築こう懸け橋地域と共に)のミニユメントを寄贈しました。

この時計塔は、私にとってまさに二一世紀への懸け橋であり、帰郷した当時を思い出させます。

〈現・(旧)江別青年会議所 副理事長〉



市内学習ポイント③

ガラス工芸館

れんがの街・江別に平成六年4月オープンしたガラス工芸館は、野幌グリーンモール沿いに位置し、歴史的な建造物として保存・活用することを目的に、洋館「旧石田邸」の外観は残し、内部を大幅に改修してつくられました。館内には、建物の一部を市から借り受け創作活動続ける米原真司さんの作品が一階と二階の窓際に展示され、ガラス作品の鑑賞の場として多くの市民が訪れています。

教育委員会でも、ガラス工芸教室を開催し、米原さんの指導のもとに、一輪挿し・小鉢などガラス作品の制作を楽しみながら学習できる事業を行っています。

〈所在地〉
野幌代々木町五三
※月曜・祝日休館
入館料・無料
〈問合せ〉
市教委 ☎381-1060



発表者募集!! えべつ 老年の主張大会

近年、地域社会における高齢者の役割はますます重要になってきました。そこで、高齢者の皆様のご意見・ご提言などを以下の要領で募集します。

- 〈募集する原稿〉
- ①テーマ…「地域社会と私たち～私の望み・私のいきがい～」
 - ②400字詰原稿用紙4枚程度(発表時間8分以内)
 - ③原稿の末尾に、住所・氏名・生年月日・職業・加入団体・電話番号を明記してください
- 〈原稿の締切〉 8月末日
〈応募資格〉 市内在住の満65歳以上の人(8月末日現在)

〈入賞及び表彰〉 実行委員会で審査し、入賞者(7名前後)を決定。「第1回えべつ老年の主張大会」(10月17日(休)・市民会館)で発表していただきます。入賞者には表彰状及び副賞を、応募者全員に参加証をお贈りします

〈提出及びお問い合わせ先〉
教育委員会生涯学習担当
(高砂町24・☎381-1062)

伝統文化と現代芸術の融合

アイヌ 詞曲舞踊団「モシリ」 公演決定



アイヌの伝統文化を基調に、現代のニーズに対応する新しいアイヌ音楽・舞台の創造を試み、活動を続けている「モシリ」の江別公演が決定しました。

モシリは、今年の1月から3月まで、「縄文の神々&弥生の神々の魂にふれる日本列島SPRITツアール」と銘打ち、全国キャラバンを行い、各地でパフォーマンスを通じ、地元の人々との交流を図ってきました。

彼らの音楽、舞踊からはアイヌ文化の粋をこえ、人類普遍の「魂の祈り」が聴こえ、神々を感じさせられます。また、最先端のシンセサイザーや照明機材を駆使した舞台演出は、その芸術性も各方面から高い評価を得ています。

なお、この公演は「アイヌ文化の理解」をテーマとした

「第2回生涯学習フェスティバルえべつ」の一環として開催されるものです。10月にはムックリや刺しゅうなどを学ぶ、アイヌ文化伝承講習会の開催も予定しております。ぜひ、お出かけください。

○

- ・11月17日(日) 午後1時開演
- ・江別市民会館大ホール
- ・チケット 2千円(予)
- ・お問い合わせは教育委員会(381-1062)まで

編集後記

本号より、「生涯学習だより」から「ら・ら・ら」に名前が変わりました。生涯学習のことを英語では「Life Long Learning」といいます。頭文字のL3つから「ら・ら・ら」と、楽しく学び合います。